



編集後記

- 今回の「人間福祉研究」第 15 号より、電子ジャーナルでの発行となりました。広島文教女子大学人間福祉学会のホームページより閲覧いただいております。ホームページ及び本紀要の存在について、是非多くの方々にお報せいただきますようお願いいたします。
- 本誌を発行できるのは、偏に多岐にわたる学会の活動をお手伝いいただく会員の皆様と投稿者の皆様のおかげです。今回も多くのご投稿をいただき、充実した内容となりました。相変わらず年度末ギリギリでの発行となっておりますが、変わらず動きの遅い編集委員にお付き合いいただいた投稿者の皆様には、心より感謝いたします。
- 人間福祉学会の第 1 部では、保育所・特別養護老人ホーム・就労継続支援 B 型で活躍している卒業生 3 名にご登壇いただき、現在研究している内容や現場での事例を発表していただきました。学び続ける姿勢、そして、実践を振り返ることが日々の仕事の質ややりがいを高めることにつながるのだということを改めて認識する機会となりました。
- 続く第 2 部では、卒業生 3 名に加え、在学生代表の 4 年生 4 名が登壇し、卒業生へ仕事のやりがいや難しさについて卒業生に質問を投げかける形でのシンポジウムを行いました。在校生にとっても卒業生にとっても、将来の、そして現在の仕事について考える良い時間になりました。本号に、当日の実践報告会の内容をまとめたものを掲載しております。
- 人間福祉学会島根ブロックも、次回開催に向け準備を行っております。今年度は 6 月に島根県で働いている卒業生 7 名と卒業生でもある本学教員が集い、組織づくりや島根の在学生と卒業生をつなぐコーディネート方法や担当者を決める作業を行いました。人間福祉学会島根ブロックの今後の活動の様子についても、本紀要を通じて引き続きご報告できればと思っています。
- 今後も、人間福祉学会が在学生と卒業生、教員の情報交換および交流の場として、互いに刺激を与え、成長し合える場であるのと同様に、学会誌上における互いの情報交換や交流、切磋琢磨を進めていきたいと考えております。皆様に無理なお願いをすることもありませんが、変わらずご協力いただきますよう心よりお願いいたします。

広島文教女子大学 人間福祉学会
『人間福祉研究』第 15 号編集委員（溝淵 淳 太原 牧絵）